

# You can fly on your own 2023年(令和5年) 学校だより

福山市立鳳中学校



世界バラ会議福山大会を学びの場・機会としてローズマインドを育みたい

2023年(令和5年)12月19日(火)中国新聞掲載記事

**福山の鳳中有志 苗10本植栽**

**憩いの場も計画**

福山市伊勢町の鳳中の生徒が、2025年に市内にある世界バラ会議福山大会に向けて校内のバラ花壇を整備している。

生徒は18日、市教育委員会の技術員や地域住民の指導を受けながら、バラの苗木を植えた。

本年度、生徒有志で結成された「ガーデンレンジャー」15人が参加した。市教育委員会の技術員が「植える前に根をほぐして」「苗がぐらぐらしないように土をしっかりと押さえる」となど助言。美広のバラ、市独自の「ローズふくやま」「福山城」の苗木を家に植え、水をやった。

校内の花壇は、近くに住む門前町志さん(67)、尚子さん(68)夫妻が、8年前からボランティアで管理。尚さんは「花壇がどんどん明るくなり、生徒も関わってくれてうれしい」とほほえむ。

同校の敷地内には地域の生活道路があり、地元住民も通る。2年金山菜月さん(14)は「みんなの目を引くようなバラに育てばいい。傷つけないように手入れする」と意気込んだ。花壇そばには、レンジャーの生徒たちが年内にベンチとテーブルを作り、憩いの場を整備するとう。

(中国新聞)

鳳ガーデンレンジャーを紹介します。

【11R】小坂奈緒・近藤雪菜・千葉翼・山下琉誓【12R】三宅爽太【13R】伊藤鈴恩・金平怜桜【21R】内田航誠【23R】金山美月・田川穂乃香【31R】上野聡太・近藤暢規【32R】内田雅紀・加藤佑都【33R】右手 誠一郎

★鳳ガーデンレンジャーの新会員を応募しています。教頭に申し出てください。

♪FMふくやまレディオBINGOの生放送に出演しました♪

ばら専用花壇が出来たいきさつを？

・10年以上前に福山市の方やPTAの保護者のみなさんが学校に薔薇の花壇を作って良い環境で学校生活を送って欲しいという思いで作って頂いたと聞いています。

これからどんな想いで育てていきたいですか？

・単純な作業の繰り返しですが花壇が薔薇の花でいっぱいになるとガーデンレンジャー以外の人も喜んでくれるのでやりがいがあります。私たちがベンチやテーブルを製作して花壇の周辺に設置するので地域の方々にも使って欲しいです。

第3回広島県中学校新人大会バドミントンの部出場権獲得



國末桃花・栗原莉子・守屋琴美・岡田楓花・千葉梨央・竹中月咲  
2024年1月13日(土)会場：広島市安佐南区スポーツセンター



第15回ふくやま子ども「生きる」美術展  
大賞「鶏がいなくなった日」【22R】仁井 心蓮

2024年1月2日(火)～14日(日)ふくやま美術館で展示  
開館時間 9:30～17:00 休館日 1月9日(火)

通報火災訓練を実施しました。

福山東消防署の方から避難する際の注意点を具体的にアドバイスいただきました。代表者が消火訓練に臨みました。

令和5年度環境と健康の標語コンクール 中学校の部 奨励賞  
ゴミを減らす あなたが未来の 救世主 【32R】平田 莉子



広島県環境と健康の標語コンクール 広島県医師会会長賞  
目の負担 からだもこわす 夜スマホ



【13R】小野 里佐子

広島県未来の科学の夢絵画展 金賞



【11R】大平 彩乃

令和5年税についての中学生作文コンクール 銀賞



【32R】熊谷 来瞳

広島県未来の科学の夢絵画展 銀賞



【11R】溝部 仁基 ダブル受賞

交通安全ポスターコンクール 優秀賞

【22R】花本 湊





池尻さんの紙芝居を紹介する植岡さん

### 福山の2世・植岡さん

## 被爆者の紙芝居思い継ぐ

福山市原爆被害者友の会事務局長で被爆2世の植岡進次さん(67)＝同市御門町＝が、被爆者の故池尻博さんの紙芝居を受け継ぎ、昨年からの語り部活動を続けている。今年4月に97歳で亡くなった池尻さんの「思いを代読する」と学校などを訪れ、原爆の恐ろしさや平和の大切さを伝えている。(東山慧介)

### 故池尻さんからバトン 代読活動

11月上旬、植岡さんは鳳中(同市伊勢丘)に招かれ、被爆体験講話を開いた。池尻さんが描いた原爆投下直後の広島市内の絵など計17枚を見せながら、「二面の空がピカッと光ったかと思うと天地を揺るがすような爆音と爆風」「手の先から焼けただれた皮が水滴のように垂れ下がり、か細い声で助けを求めている姿が目には焼き付いて離れない」。池尻さんが書いた台本を読み上げた。池尻さんは1945年8月6日、重馬を養う当番として爆心地から約3キロ離れた広島駅北側の二葉山へ草刈りに行き、被爆した。紙芝居には、寝食を共にした仲間が馬場で亡くなったことを描写。草刈りに行った自分が偶然助かったことを生々しく描き、「彼に代わって核兵器廃絶を信じていきたい」との語りを加えた。

池尻さんは友の会の前

身の市原爆被害者友の会の会長を12年間務めた。体調不良をきっかけに、講演会のサポートをしていた植岡さんに紙芝居を引き継いだ。植岡さんは紙芝居を披露する際、13歳で被爆した母淳子さん(2017年に85歳で死去)の被爆者健康手帳も紹介する。淳子さんが体験記につづった一人間の所業である全ての戦争をなくし、核の絶滅を願うのが私たちの責務」との言葉と一緒に。友の会の会員は、現在被爆者17人を含む52人。高齢化が進み、被爆体験の証言を続けるのは植岡さん一人となった。「池尻さんに『よろしく頼む』と言われた。いつまで続けられるか分からないが、多くの人に平和の大切さを語り継ぐ」と決意をにじませた。

空襲で変色した福山城石垣について説明する中高生ら(福山市で)



写真左端:メンバーの一人として説明中の【鳳中13R】金平 怜桜

## 戦争の痕跡 中高生ら紹介

### 福山でピースウォーク

福山市の中高生らが戦争遺跡を紹介するツアー「ピースウォーク」が5日、同市丸之内の福山城公園などで開かれ、身近に残る戦争の痕跡を巡った。中高生は市人権平和資料館で平和学習を続けている「ふくやまピース・ラボ」のメンバー。戦争体験者の話を聞く活動などに取り組んでいる。この日は一般参加者8人に対し、中高生ら8人が説明。福山城では、石垣の石材の一部が赤く変色し、角が丸くなっていることについて、「1945年8月の福山空襲で高温の激しい炎にさらされたため」などと話した。防空壕跡や慰霊碑など計7か所を巡った。初めて参加した無職女性(60)は「近くに住んでいるが、知らないことが多かった。若い人たちの取り組みが頼もしい」と話した。中学1年の時から活動する福山暁の星女子高2年の谷口結萌さん(17)は「身近な場所に遺跡があることを知り、平和について考えてもらえれば」と話した。